

### 放送朝会の話

皆さん、おはようございます。

先週のきらりを紹介します。

「あたりまえのことが あたりまえにできる」 皆さんは素晴らしい！

例えば1年生です。心臓検診が校長室の隣の応接室で行われました。まず、とっても静かに待っている姿に感心しました。その上、検査の前に脱がれた上履きがきちんとそろえて並べられていたことに驚きました。だれ一人として脱ぎ散らかしている人はいませんでした。

それに言葉遣いがとても美しいことにも感心しました。校長先生に話しかけてくれるお友達はその学年の人もみんな時と場に応じた美しい言葉づかいで話してくれるのでとても気持ちがいいです。

教室移動もきちんと並んで口を閉じて静かにできています。

あたりまえのことをあたりまえにすることは一見簡単そうに見えますが、実は難しいことなのです。三小の皆さんはよくできていると思います。

さて、今日は文部科学大臣から皆さんへのメッセージについてお話します。

児童生徒等や学生の皆さんへ

(メッセージは別紙)

令和2年8月 文部科学大臣 羽生田 光一

文部科学大臣は皆さんにどんなこと伝えたかったのでしょうか。

まず、皆さんが「自分の命」「人の命」を守るために頑張っていることを認めてくださっています。

次に、万が一コロナウィルスに感染した人が出た場合、責めるのではなく、思いやりの気持ちを持ち、励ましてほしいということをおっしゃっています。このことは、藤田先生が計測の時にコロナについてお話してくださったことにつながります。「悪いのはコロナにかかった人ではありません。コロナウィルスです。」とおっしゃっていましたね。

最後に、過去に今回の新型コロナウイルスのような新しい病気を経験してきましたが、乗り越えてきました。自分でできる予防をしっかり行って将来の目標に向かって学び続けることを応援して下さっています。

ここで、校長先生からもう一つ付け加えます。それは、医療従事者への感謝の気持ちを忘れないでほしいということです。防護服を着て汗びっしょりになりながら患者さんの命を助けるために、寝る間も惜しんで治療して下さっているお医者様、看護師さんなど、医療従事者がいらっしゃることを心にとめておいてほしいと思っています。医療従事者の家族だからと言って、コロナがうつると避けられたり、からかわれたりして心を痛めている人がいることが報道されていました。とても心が痛みます。

まだ暑い日が続きます。熱中症、コロナに気を付けて、今週も頑張りましょう！